



# 飯能ロータリークラブ会報

飯能河原遊歩道 The promenade along the Hannoriver この写真は車乗入れ禁止前のものです。

© photo by Isao Yoshida

## “Reach Within to Embrace Humanity”

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

RI会長  
カルヤン・パネルジー  
2570地区ガバナー  
立原 雅夫

Smart Rotaryを探して ~継続できるロータリークラブとは~ + ガンバレ! 日本のロータリークラブ

### 第 2486 例会 2012.4.11

—— 雑 誌 月 間 ——

天 候 雨 (NO.48-41)

会 長 吉 島 一 良 幹 事 間 邊 元 幸

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当 番 小川君、大野君

例会場: マロウドイン飯能 〒357-0021 飯能市双柳105-8  
☎(042)974-4000

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7  
☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662  
http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点 鐘 吉島会長
- ・ソング それでこそロータリー
- ・ピジター (新狭山) 井花富男ガバナー補佐様  
渡辺 進様 田口孝志様 西澤長次様  
(元GSEメンバー) 増田圭佑様  
(オーストラリアGSEメンバー)  
グレッグ・キローラン様: 歯科医  
ラーナ・ギシュカリアーニー様:  
NPO代表・IT関係・ML 修士  
アマンダ・コップ様: 看護師  
カーステン・ビニー様: 日本語教師
- ・卓 話 野口 勲様

キローラン代表によるメンバー紹介&パナー交換  
吉田(健)会員  
復帰の挨拶



#### 【会長報告】省略

#### 【幹事報告】

- ・週報: 入間、狭山、狭山中央、新所沢RC

#### 【委員会報告】

親睦活動委員会 大崎君  
4/13 親睦ゴルフ。5/23 夜間例会および  
6/9、10 親睦旅行の出欠は4/25までに。

#### 【出席報告】無断欠席なし 増島出席委員長

会 員 数		当 日		前々回修正 出 席 率
全 数	対 象	出席数	出席率	
54名	6名	48名	88.89%	92.73%



#### 【M U】

4/7(ガバナー) 木川君

#### 【S A A報告】

飯能にホームステイ  
A Kopp氏

ニコニコBOX

- ・野口さんようこそ。本日は卓話よろしくお願ひ致します。新井君、中里昌君、市川(洋)君、小久保君  
和泉君、矢島 巖君、小崎君、杉田君、前島君  
吉島君、吉田(武)君、安藤君、間邊君、土屋 崇君
  - ・JC時代お世話になりました。新井君
  - ・井花ガバナー補佐様はじめ新狭山RCの方々、オーストラリアGSEのメンバーの方々ようこそ飯能へ。  
中里(昌)君、半田君、吉島君、吉田(武)君  
安藤君、間邊君、土屋(崇)君
  - ・井花さん、ガバナー補佐役頑張って下さい。  
矢島(巖)君
  - ・おかげさまで無事退院しました。お見舞を有難うございました。吉田(健)君
  - ・結婚記念日お花有難うございました。石井君
  - ・早退 馬場君、細田(伴)君、大野君
- 本日計 33,000 円、累計額 1,007,125 円。  
18日例会当番は大崎会員、齋藤会員です。

## 【卓 話】

講師紹介

小久保会報・広報委員長

S19年生まれ、67才。手塚治虫の担当編集者をされていた異色の経歴。家業を継いで親子3代にわたり在来種、固定種、各地の伝統野菜の種を扱う種苗店を飯能の地で営む。昨年秋『タネが危ない』を出版、現在第4刷、12000部の発行。ご興味のある方はお買い求め下さい。

## タネが危ない

野口種苗研究所 代表 野口 勲 様

食べ物をどういじって ミトコンドリア異常の植物を食べるようになったかという今日はちょっと恐ろしいお話。細胞の中には核の他に細胞内小器官がいろいろあり、その1つがミトコンドリア。人間60兆の細胞の中に約1千~3千個居て、我々はこれの出すエネルギーのお蔭で生きている。核の染色体遺伝子とは別の環状の遺伝子を持っているのだが、何故、細胞内に別の遺伝子を持つものが居るのか。

地球の誕生は46億年前。38億年前に最初の生命、単細胞のバクテリアが生まれる。地球上はほぼ炭酸ガスだけだったので嫌気性バクテリアだった。その中からシアノ・バクテリアが生まれ光合成をして酸素を地球上に出すようになる。嫌気性バクテリアにとって酸素は猛毒。酸素の無い所へ、地中、海底深くへと移動する。その中で好気性の細菌が生まれ、ある時、嫌気性と出会い、嫌気性が好気性を取り込んで細胞内共生が起こる。好気性細菌がミトコンドリアに変わり、呼吸して酸素エネルギーを提供してくれるようになる。ミトコンドリアが同居し、増殖したことで、単細胞だったバクテリアが細胞分裂して多細胞の生命体になっていった。別の生き物だったミトコンドリアが別の遺伝子を持ったまま我々の体の中で動いて生かしてくれているというわけである。

卵子中のミトコンドリアは10万、精子は尻尾の付根に100個位。卵子にたどり着くまでの酸素エネルギーを供給する。睾丸で生まれた精子が膈内の卵子にたどり着くためには100kmマラソンを2回全力疾走する位のエネルギーが要る。くたびれたミトコンドリアは活性酸素を出すようになるため、卵子のミトコンドリアだけが子どもに受け継がれる。母系遺伝。我々は男も女もお母さんのミトコンドリア遺伝子しか持っていない。

本来、免疫機能を持ち我々の体を生かしてくれている存在だが、くたびれてくると老化の原因になったり、癌が転移する原因になったりする。死もミトコンドリアが司っている。

そして、タネの話。「在来種」は人類が誕生してからずっと農民が受け継いできたもの。遺伝学や植物学を知らずに自家採種しているとだんだん交雑しておかしくなってくる。「固定種」は、その中から種屋が形質等を選抜して



遺伝子を固定したもの。S30年代まではほぼこれだったが、今は「F1」一代雑種(交配種)になってしまった。雑種にすると雑種強勢の力が働いたり、メンデルの法則で1代目に優性形質だけが出るので揃いが良く丈夫になる。

雑種にするには、トマト等の場合、「しべ」が成熟しないうち、若いつぼみを開いて全ての雄しべを引っっこ抜いてしまう。雌しべだけの哀れな姿になった花が成熟した時に他の花の雄しべの花粉を取って来て着けてやる。1個のトマトで500粒程の種が取れる。人件費がかかるが、それなりに値段を高く売れば成り立つ。もっと良い方法を考えていた時、1925年、米国カリフォルニア州農業試験場で技師がタマネギの1つに雄性不稔のものを見つける。花粉が出ない代わりに1つ1つの花に小さなマイクロタマネギを着けていた。それを畑に植えると咲いた花は全て雄性不稔のいじけたものだった。そこに健康な花粉を着けてみたら子どもは全て雄性不稔。これで簡単に「F1」が出来事に気付いた。母親が雄性不稔だと子どもも雄性不稔というのはミトコンドリアの異常。今はそれをどんどん増やして食べる時代になった。以下は僕の仮説。

固定種・在来種は1年で一粒万倍、2年で1億倍と天文学的に増える。これが生命が持つ本来の力。ところが、その中からたった1個体見つかった子孫を作れない株を「これは有難い」と増やした。2007年2月、時事通信が、米国でミツバチが忽然と消える「イナイ・イナイ病」を伝える。全米240万の巣箱の80万箱から働きバチが消え、1か月半後、「蜂群崩壊症候群」と名付けられ、病気ではないが何かわけの分からない事が起こっているという事になった。ミツバチは雄性不稔の母親の花に健康な花粉をかける役目をしている。1千haの畑に1~2万の巣箱が必要で、1つの巣箱に5万匹の働きバチが居るとすると5億匹位が働いていることになる。ミツバチは花粉を着けるために働いているのではなく(異常な)蜜を集めて巣箱の未来のために奉仕しているわけである。欧州では卵を産まない女王バチが増えている。進化は100万年前に終わっているミツバチに1960年代から突然大規模にへんな事が起こった。女王バチに異常が蓄積され、生殖能力のない雄バチが生まれる。無償の奉仕を続けてきた働きバチ(雌)が、巣の未来に絶望し、アイデンティティーを失って巣を見捨てて飛び去った事件なのではないか。20年後、2027年頃にもう一度起こるのではないか。そして、その時には手遅れになるのではないか。もし、ミツバチでそれが起こるとしたら人間にも起こるだろう。健康なミトコンドリアを持った野菜を食べる必要があるのではないかと思う。

次週の例会案内は省略。